

之蟄穴而海岸之暖地也此兼文昌胡仔之說合則燕之蟄者不可疑矣

〔重修本草綱目啓蒙三十二〕燕

原禽ヒメスドリ古歌

ツバクラメ和名

ツバメ

ツバクラ

ツバ

ツバ

里紫車 朱鳥共同

社公事物

鳥衣郎

邊里葉車共同

意而卿環

意怠庶物異

燕子訓

燕訓

燕訓

燕訓

一名馮舍胡大倉州志

蛇燕函史

巧燕訓蒙

越燕涼州

舍鵬兒事物

拙燕訓蒙

胡燕

時珍云春社來秋社去ト此說ノ如ク春社立春後

歸ル二種アリ人家ニ入り巢ヲ結モノハ形小ク腹下白色胸紫色俗コツバメト云同名

弘景說ト

コロノ越燕是也又堂社ノ兩椽ノ間ニ土ヲ以テ長ク底ヲコシラヘ巢ヲ結ブモノハ形大ニシテ

胸紫ナラズ告天子ノ如クナル斑文アリ腹下黃色雨前ニハ必群飛ス俗オホツバメト云一名ア

マドリ和名ヤマツバメ大和トウツバメ阿波マツバメ共同アナグラツバメ勢州ミヤマヒイゴ備

後妙見ヒイゴ但州キヤウドツバメ雲州朝鮮ツバクラ羽州ミヤマツバクラ防州是弘景說トコ

ロノ胡燕ニシテ藥用ニ入ル者ナリ總テ寒氣ヲ畏ル故ニ春社ヨリ此地ニ來リ秋社ヨリ南方

暖國ニ渡ル中山傳信錄ニ七月玄鳥來注ニ燕至此月始來ト云又燕七月來不巢人屋ト云此文ニ

據レバ實ニ南國ニ歸去ルト見ヘタリ然レドモ攝州六甲山ノ巔ニハ土中ニ穴シテ蟄シ正月ニ

テモ天氣晴暖ナル時ハ數萬出テ飛翔スト云時珍伏氣蟄於窟穴之中ト云ニ合ヘリ然ル時ハ燕

一々皆南歸スルニモ非ザルナリ

〔喚子鳥上〕つばめ

ゑがい

右同斷

〇生

壹々

あなみ入粉壹々

つばくらなり毛色總身くろくのどうす黄にはらまろしあら鳥がい鳥に成がたし子がいと

にかいにくき類なりさへづりよし